

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤラーバが出現し続けています

1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは奥内沖で1月20日に1.7個体/m³、久栗坂沖で1月19日に0.6個体/m³、野辺地沖で1月20日に3.1個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) ムラサキガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で1月20日に65.8個体/m³、久栗坂沖で1月19日に91.1個体/m³、野辺地沖で1月20日に322.7個体/m³、川内沖で1月19日に709.4個体/m³見られました (表1)。

(3) キヌマトイガイ (通称：コメガキ)

ラーバは奥内沖で1月20日に6.7個体/m³、久栗坂沖で1月19日に22.2個体/m³、野辺地沖で1月20日に66.4個体/m³、川内沖で1月19日に160.9個体/m³見られました (表1)。

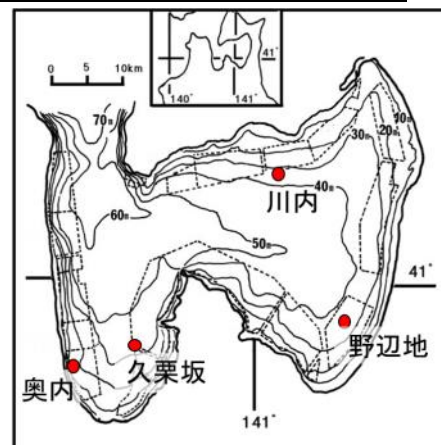


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層の水温は西湾で8℃前後、東湾で6℃前後です。

(1) ユウレイボヤ

ラーバ累積出現数が10個体以下の場合は付着が少ないことが分かっています。奥内沖の累積ラーバ数が15.1個体/m³と10個体以上になっており、分散済みのパールネットにユウレイボヤの付着が見られています。**今春出荷時に大量付着している可能性があります。**また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着する**ことが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

(2) ムラサキガイ

ラーバの出現数が増加していますが、秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

(3) キヌマトイガイ

ラーバの出現が継続していることから、今後、**籠や耳吊り、マボヤの採苗器への付着が進む**ものと思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ミネジツボ	ムラサキガイ	キヌマトイガイ	マボヤ	
							ラーバ	卵
奥内沖	R6.1.20	1.7	0.0	0.0	65.8	6.7	1.7	0.0
久栗坂沖	R6.1.19	0.6	0.0	0.0	91.1	22.2	0.6	0.6
野辺地沖	R6.1.20	3.1	0.0	0.0	322.7	66.4	0.0	1.6
川内沖	R6.1.19	0.0	0.0	0.0	709.4	160.9	0.0	0.0

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

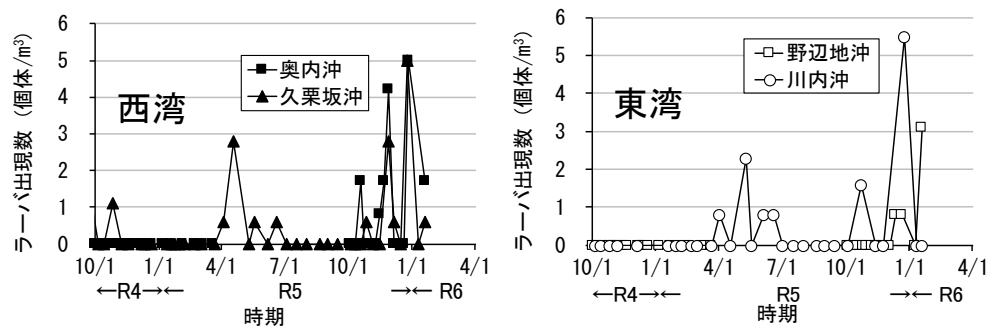


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和4年10月～令和6年1月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

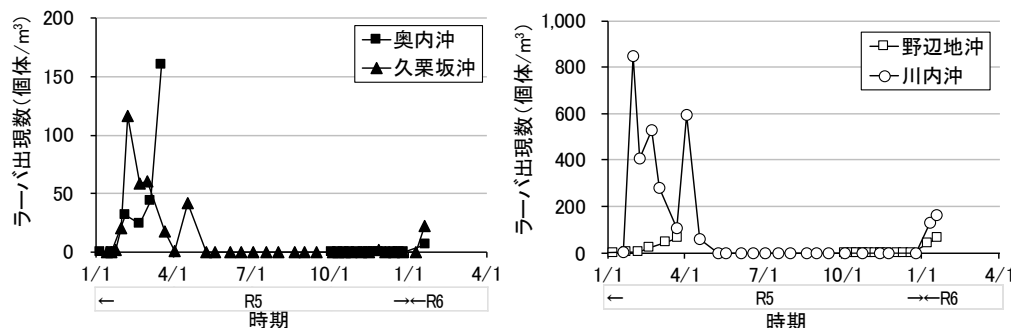


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移 (令和5年1月～令和6年1月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 915個体/m³、東湾 4,483個体/m³

